

曾於市誕生 までの変遷

末吉町・大隅町・財部町の3町が合併し曾於市が誕生しました。
では現在の曾於市ができるまでに、まちはどのような変化をたどってきたのでしょうか。

江戸時代末期 3つの「郷」からはじまった

財部郷・末吉郷・恒吉郷 ※月野は志布志郷、荒谷は大崎郷に含まれていました。

明治時代 「郷」から「村」へ

末吉郷から岩川が独立し、岩川郷が創設。(鹿児島県下では最後に設置された郷)

その後、明治22年に町村制施行され財部村・末吉村・岩川村・月野村・野方村などが誕生



明治22年(1889)当時の行政区分

大正～昭和 町制施行により「町」が生まれる

大正11年 末吉町、大正13年 岩川町、大正15年 財部町、昭和30年 岩川町・恒吉村・月野村が合併し大隅町が誕生

平成 平成の大合併で3つの町が一つに

平成の大合併を背景に、曾於地域でも市町村合併に向けた動きが始まりました。平成13年には曾於郡内の8町による意見交換が行われ、翌年には合併について調査・研究する曾於地域市町村合併調査研究会が設立されました。その後、各町で将来のまちのあり方について検討が進められ、平成15年1月、末吉町と大隅町による任意合併協議会が設置されました。同年3月には財部町の参加が決まり、4月11日に「曾於北部合併協議会」が設置。3町による本格的な合併協議が始まりました。協議会では、約2年間にわたり全27回の協議を重ね、平成16年10月28日には合併協定調印式が行われました。そして平成17年7月1日、末吉町・大隅町・財部町が合併し、曾於市が誕生しました。



第12回曾於北部合併協議会で
新市名が曾於市に決定
(平成16年5月27日)

「曾於」の由来知ってる？

「曾於」(そお)という地名は、古代この一帯に住んでいたとされる「熊襲(くまそ)」の「そ」に由来すると考えられています。和銅6年(713)、国・郡・郷の地名は漢字二字で表記するよう命令が出され、「曾於」と呼ばれるようになりました。古代から続く古い地名が現在の市名「曾於市」に受け継がれた形になっています。ちなみに合併協議当時、新市名称募集の際には、1,761点の応募があり、曾於市のほかに「曾於和市」「財大吉市」「大曾於市」「南九州市」などの候補が挙がっていました。



特集

未来へ残す、曾於市の記憶。

— 市史編さん、令和12年の刊行に向けて —

曾於市はどんな歴史を歩んで今のまちになったのでしょうか。現在、市では令和12年の市史刊行に向けて、古文書や古写真などの資料を集め、調査・研究を進めています。市史編纂の「いま」を知り、曾於市の「これまで」をたどってみませんか。



市史編さんの スケジュール

市の歴史を未来へ残すため、令和6年度～14年度までの9年間で市史の編纂を進めています。

令和6年(2024)

市史編纂スタート
・市史編纂委員会、
編集委員会を設置

令和7年(2025)

資料収集
・古文書や古写真
などの収集、調査

令和8年(2026)

調査・研究
・資料収集
・専門部会による調査

令和9年～10年
(2027～2028)

原稿作成・入稿
・補足調査
・原稿作成

令和11年(2029)

刊行準備
・校正、製本
・刊行案内

令和12年(2030)

市史刊行！
令和14年(2032)
市史簡易版を刊行
曾於市誕生25年！

曾於市誕生以降、初めて市史が編纂されることになり、市制施行25周年にあわせて刊行されます。私は地区(校区)史を担当していますが、特に昭和・平成時代を残していくのは最後のチャンスだと思っています。今では当たり前となっている風景や地域の伝統、市の自慢などをどれだけ残していけるかが大切です。

調査を進める中で、政治・商工業・農業・文化など、幅広い分野で今まで知らなかった「人」を見つけることができます。行動力があり時代に即した新しい取り組みをしている人が多いと感じています。また皆さんが持っている昔の写真や資料も貴重です。特に生活風景を表すような資料があれば、ぜひ提供してほしいです。例えば物価が分かる書類や服装、子どもの遊び方、冠婚葬祭など当時の暮らしが分かるものです。

市史の編集では誰にでも分かりやすいように言葉を選び、写真や地図なども工夫して配置していきます。皆さんに「おもしろかった」「いろんなことを知れた」と感じてほしい、市への誇りを持ってもらえるような一冊になってほしいです。



曾於市史編纂副委員長・
曾於市史編集委員
勝目 興郎さん

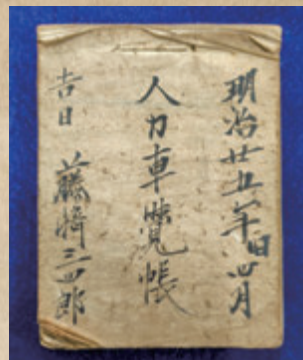
市史をつくる、大切な資料

古写真や古文書、日記、記念誌など、市の歴史を伝えるさまざまな資料が寄せられています。



昭和 55 年部落会長・
昭和 42 年度駐在員ノート
(現 西国原自治会)

集落の代表者(現在でいう自治会長)が持っていたノート。末吉町役場の組織図や庁舎図なども掲載されています。



人力車覚帳
(明治 25 年)

岩川で車夫(人力車を引く仕事)をしていた人物の帳簿で、行き先や車賃が記録されています。当時の岩川から都城まで、35〜60銭程度だったことが記されています。



桐原の風景
(昭和 33〜34 年頃)

桐原の集落を見下ろす丘(現 きいわらん丘)から撮ったもの。当時は高千穂がよく見えていたようです。

あなたの家にも「歴史」が眠っているかもしれません

写真や記録は、未来の曾於市にとってかけがえのない宝物です。資料の提供にご協力をお願いします。

- ▶ 古写真(昔の街並み、お祭りや地域の行事の様子など)
- ▶ 日記・手紙
- ▶ 地域や学校などで刊行された記念誌
- ▶ 実物資料 など



市史編さんの
情報はこちら

【お問い合わせ】

生涯学習課 文化財・市史編纂室
☎ 0986-76-8873



歴史講演会を開催します

市の歴史を写真などで振り返る
パネル巡回展も同時開催!

市史編纂の執筆を務める専門家をお招きし、曾於市の歴史を紐解く 2 本立ての講演会です。

講演① 午後 1 時 30 分〜
遺跡が語る縄文時代の曾於 — 引き継がれる命と経験 —
講師 前迫 亮一 氏

講演② 午後 3 時〜
中世曾於市域の政治的・軍事的位置
講師 新名 一仁 氏

日 時 11 月 21 日(土) 午後 1 時 30 分〜午後 4 時 20 分(午後 1 時受付開始)

会 場 末吉中央公民館

定 員 先着 70 名 ※要事前申し込み 参加費 無料

申込方法 Google フォーム・電話・メールのいずれかで申し込み
※申込締切 11 月 13 日(金)

生涯学習課 文化財・市史編纂室
☎ 0986-76-8873
メール o-syakyou@city.soo.lg.jp



申し込みフォーム
はこちら

昔と今

道路や建物など、まちの姿は変わりましたが、今も地域の中心として人々の暮らしを支えています。



末吉町松島屋百貨店付近(昭和 38 年頃)



今の風景



大隅町本町(昭和 39 年頃)



今の風景



財部町本通り(昭和 40 年代)



今の風景



生涯学習課 文化財・市史編纂室
室長 加塩 英樹さん

現在、市史編纂は編纂委員長(教育長)を中心に編纂体制や執筆者のメンバーがほぼ固まり、資料収集や現地調査を進めています。先人達の記録や古写真、言い伝え、史跡や伝承地の情報、少し前の町の様子など、幅広い資料を集めています。

特に印象に残っているのが、昨年秋に財部町の願成寺で出会った仏像です。永享 12 年(1440)に造立された大変古いもので、室町時代中期の仏像と確認できるものとしては市内唯一。「こんな凄いものが曾於市にあるんだ」と衝撃を受けました。

市史編纂の仕事は「すべてが大変」と感じる一方、埋もれていた歴史や資料に出会える面白さがあります。地域の大切な記録や記憶を見極め、次の世代へ残していくため、市民の皆さんからの情報提供が欠かせません。古い写真や記録、地域に伝わる話など、どんな情報でも構いませんのでお気軽にお問い合わせください。